

原爆による被害

有馬 咲良

私が「広島市平和記念式典児童派遣事業」  
で、印象に残ったことの中から、特に、人に  
伝えたいことを1つ発表します。

お伝えしたのは、被爆体験講話です。原爆は、8  
月6日、広島にいた人をいっしょんにして、  
消しさりしました。原爆がおとされる前の日本  
は、戦争をしており、中学生は労働力。今で  
は考えられない暮らしをしていました。食料

が少ない、自由も少ない、家族のために、戦  
争に行かないといけない。そんな暮らしをし  
ていた時に原爆はおとされました。何も分か  
らず亡くなった人、やけどで苦しみながら亡  
くなっただ人、放射線のえいきょうで亡くなっ  
ただ人。今でも、がん等で苦しんでいる人。た  
た一発の原爆で、何万人もの人が、亡くなり  
ました。そして、原爆のえいきょうは、被爆  
者の子孫にまでえいきょううします。子孫が、  
白血病やがんになりやすくなるそうです。こ

の話をしてください。た人の孫も、血液の病気が見つかったそうです。

原爆は今でも、人を苦しめています。今、た、た一発でも、かくいいきがおちること、人類は、せつめつの道を歩むことになり、皆さんも原爆のおそろしさを知り、原爆をなくすことに協力しませんか。